

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や画像検査の結果を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	初診時原発不明転移性骨腫瘍の原発巣同定に要する期間が予後に及ぼす影響に関する後ろ向き観察研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 整形外科 (職名) 講師 (氏名) 藤渕 剛次
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日
対象	2007 年 4 月から 2024 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち初診時に原発巣が不明であった 20 歳以上の転移性骨腫瘍の患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況、治療経過 等
研究の概要	我が国におけるがんの罹患数は年々増加傾向にあり、がん罹患数の増加に伴い骨転移を有するがん患者の数も増加傾向にあるものと予想されます。整形外科には原発が不明の転移性骨腫瘍の患者さんが受診することがあり、これらの患者さんにおいては、原発巣を早期に特定し、早期に適切な治療を開始することは重要であると予想されますが、その重要性に関する研究、報告は皆無です。このため本研究では初診時に原発巣が不明の転移性骨軟部腫瘍において、原発巣を同定するまでの期間が予後などに及ぼす影響を明らかにすることを目的としました。 この研究では、上記の対象患者さんに関し、当院初診から原発巣の確定、原発科を受診するまでにかかった期間、最終的な生命予後、原発巣あるいは骨転移に対する治療の開始日と内容、経過中の日常生活動作の状態などを調査し、原発巣の確定や原発科を受診するのににかかった時間がその後の患者さんの経過、予後に関連しているかどうかを明らかにします。
個人情報の取扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れること

	はありません。 また、保管される試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院整形外科 藤渕剛次 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5343